

【別表7 ソーシャルワークに関する研修の研修課程（カリキュラム）】

- ※ ソーシャルワークに関する研修の各科目は、到達目標及び想定される研修内容を踏まえて研修内容を構成すること。また、規定時間以上の時間を確保すること。
- ※ ソーシャルワークに関する研修について、こども家庭福祉の相談援助の現任者については、一部の科目の受講を免除とすることができることとする。
- ※ 研修の科目について、演習に該当する部分をまとめて教授する等、研修実施機関において柔軟な実施を可能とする。

科目名 (講義 78・演習 78・見学 実習 9)	時間	到達目標	想定される研修内容の例示
ソーシャルワークの基盤と専門職（講義）	相談援助実務経験者ルート 免除（0 時間）  保育所保育士ルート 19.5 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワーク専門職の位置づけと役割について理解する</li> <li>・ソーシャルワークの概念について理解する</li> <li>・ソーシャルワークの基盤となる考え方について理解する</li> <li>・ソーシャルワークの形成過程について理解する</li> <li>・ソーシャルワークの倫理について理解する</li> <li>・ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する</li> <li>・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する</li> <li>・総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワーク専門職の位置づけと役割</li> <li>・ソーシャルワークの定義</li> <li>・ソーシャルワークの原理</li> <li>・ソーシャルワークの理念</li> <li>・ソーシャルワークの形成過程</li> <li>・専門職倫理の概念</li> <li>・ソーシャルワーカーの倫理綱領</li> <li>・倫理的ジレンマ</li> <li>・ソーシャルワーク専門職の概念と範囲</li> <li>・福祉行政等における専門職</li> <li>・民間の施設・組織における専門職</li> <li>・ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象</li> <li>・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク</li> <li>・多機関による包括的支援体制</li> <li>・フォーマル・インフォーマルな社会資源との協働体制</li> <li>・ソーシャルサポートネットワーク</li> <li>・多職種連携及びチームアプローチの意義</li> <li>・機関・団体間の合意形成と相互関係</li> <li>・利用者、家族の参画</li> </ul>
ソーシャルワークの理論と方法（講義）	相談援助実務経験者ルート 39 時間  保育所保育士ルート 39 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と環境との相互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する</li> <li>・ソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて理解する</li> <li>・ソーシャルワークの過程について理解する</li> <li>・ソーシャルワークの記録について理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム理論</li> <li>・生態学理論</li> <li>・バイオ・サイコ・ソーシャルモデル</li> <li>・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク</li> <li>・ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ</li> <li>・ソーシャルワークの過程</li> <li>・記録の意義、目的、方法</li> <li>・ケアマネジメント（ケースマネジメント）の原則と方法</li> <li>・グループワークの意義、目的、展開</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジメントについて理解する</li> <li>・集団を活用した支援について理解する</li> <li>・コミュニティワークについて理解する</li> <li>・スーパービジョンとコンサルテーションについて理解する</li> <li>・ソーシャルワークにおける援助関係の形成について理解する</li> <li>・ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発について理解する</li> <li>・ネットワークの形成について理解する</li> <li>・権利擁護とアドボカシーについて理解する</li> <li>・ソーシャルワークに関連する方法について理解する</li> <li>・カンファレンスについて理解する</li> <li>・事例分析について理解する</li> <li>・ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際について理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティワークの意義、目的、展開</li> <li>・ソーシャルアドミニストレーションの意義、目的、展開</li> <li>・スーパービジョンの意義、目的、方法</li> <li>・コンサルテーションの意義、目的、方法</li> <li>・援助関係の意義、概念、形成方法</li> <li>・面接技術</li> <li>・アウトリーチ</li> <li>・社会資源の活用・調整・開発</li> <li>・ソーシャルアクション</li> <li>・ネットワーキング</li> <li>・コーディネーション</li> <li>・ネゴシエーション</li> <li>・ファシリテーション</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・カンファレンス</li> <li>・事例分析</li> <li>・総合的かつ包括的な支援の考え方</li> <li>・家族支援の実際</li> <li>・地域支援の実際</li> </ul>
地域福祉と包括的支援体制（講義）	相談援助実務経験者ルート 19.5 時間  保育所保育士ルート 19.5 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉の基本的な考え方について理解する</li> <li>・福祉行政システムについて理解する</li> <li>・福祉計画の意義と種類、策定と運用について理解する</li> <li>・地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題について理解する</li> <li>・地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制について理解する</li> <li>・地域共生の実現に向けた多機関協働について理解する</li> <li>・災害時における総合的かつ包括的な支援体制について理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉の概念と理論、発展過程</li> <li>・地域福祉の主体と形成</li> <li>・国の役割、都道府県の役割、市区町村の役割</li> <li>・国と地方の関係</li> <li>・福祉行政の組織及び専門職の役割</li> <li>・福祉における財源</li> <li>・福祉計画の意義・目的と展開</li> <li>・市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容</li> <li>・福祉計画の策定過程と方法、実施、評価</li> <li>・地域社会の概念と理論</li> <li>・地域社会の変化</li> <li>・多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ</li> <li>・地域福祉と社会的孤立</li> <li>・包括的支援体制</li> <li>・地域包括ケアシステム</li> <li>・地域共生社会の実現に向けた各種施策</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉と包括的支援体制の課題と展望について理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援</li> <li>・地域共生社会の構築</li> </ul>
ソーシャルワーク 演習Ⅰ (演習)	相談援助 実務経験 者ルート 免除(0 時 間)  保育所保 育士ルー ト 39 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、ソーシャルワーク専門職として求められる基礎的な能力を涵養する</li> <li>・ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する</li> <li>・ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う</li> <li>・ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する</li> </ul>	個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行う。  <ねらい> ○自己覚知 ・自己理解と他者理解 ○対人援助の姿勢（傾聴、共感、承認、経緯） ○基本的なコミュニケーション技術 ・言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約等） ・非言語技術（表情、態度、身振り、位置取り等） ○基本的な面接技術 ・面接の構造化 ・場の設定（面接室、生活場面、自宅等） ・ツールの活用（電話、e-mail 等）  <ねらい> ○ソーシャルワークの展開過程 児童虐待や児童虐待の予防に係る事例を用いて、次に掲げる具体的なソーシャルワークの場面と過程を想定した実技指導を行うこと。 ・ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア ○ソーシャルワークの記録 ・支援経過の把握と管理 ○グループダイナミクスの活用 ・グループワークの構成（グループリーダー・コリーダー・グループメンバー） ・グループワークの展開過程（準備期・開始期・作業期・終結期） ○プレゼンテーション技術 ・個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション

<p>ソーシャルワーク 演習Ⅱ (演習)</p>	<p>相談援助 実務経験 者ルート 39 時間</p> <p>保育所保 育士ルー ト 39 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を修得する</li> <li>・ソーシャルワーク専門職に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う</li> <li>・支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する</li> <li>・地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する</li> <li>・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する</li> <li>・実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する</li> <li>・実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する</li> </ul>	<p>(1) 個別指導並びに集団指導を通して、実技指導(ロールプレイング等)を中心とする演習形態により行う。</p> <p>&lt;ねらい&gt;</p> <p>○次に掲げる具体的な事例等(集団に対する事例含む。)を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に修得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童虐待</li> <li>・ひきこもり</li> <li>・貧困</li> <li>・その他の危機状態にある事例(権利擁護活動を含む)</li> </ul> <p>○前項に掲げた事例等を題材として、次に掲げる具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースの発見</li> <li>・インテーク</li> <li>・アセスメント</li> <li>・プランニング</li> <li>・支援の実施</li> <li>・モニタリング</li> <li>・支援の終結と事後評価</li> <li>・アフターケア</li> </ul> <p>○前項の実技指導に当たっては、次に掲げる内容を含めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトリーチ</li> <li>・チームアプローチ</li> <li>・ネットワーキング</li> <li>・コーディネート</li> <li>・ネゴシエーション</li> <li>・ファシリテーション</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・ソーシャルアクション</li> </ul> <p>&lt;ねらい&gt;</p> <p>○地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、次に掲げる事項について実技指導を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握</li> <li>・地域アセスメント</li> <li>・地域福祉の計画</li> <li>・組織化</li> <li>・社会資源の活用・調整・開発</li> <li>・サービスの評価</li> </ul>
----------------------------------	--	--	---

			<p>(2) ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として修得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例研究、事例検討</li> <li>・スーパービジョン</li> </ul>
見学実習Ⅱ（演習）	<p>相談援助実務経験者ルート免除(0時間)</p> <p>保育所保育士ルート 9時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こども家庭福祉分野のソーシャルワーカーとして求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う</li> <li>・施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する</li> <li>・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する</li> </ul>	<p>次に掲げる事項を通じて、ソーシャルワークの実践現場を理解し、特定の施設・機関（以下「施設等」という。）の職員から見学により、直接話を聞く等を通じ、こどもや家庭のおかれている環境やサポート体制等支援の実際を学習し、その機能等を学ぶものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設等に関する事前学習</li> <li>・施設等の職員による概要説明の理解</li> <li>・施設等が地域で果たす役割と多職種・多機関・地域住民等との連携・協働による実践の概要の理解</li> <li>・施設等の見学</li> <li>・施設等の職員との質疑応答</li> <li>・施設等の見学等を踏まえた課題の整理等の振り返り</li> </ul> <p>※ 施設・機関の見学にあたっては、支援を必要とするこども等に対するソーシャルワーク（総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携を含む）について実践的に理解するため、ソーシャルワークの一環として開催される自治体や施設、関係機関等とが話し合う会議体等（例えば受理会議、支援方針会議、個別ケース検討会議等）を見学することが望ましい。</p> <p>※ 一人の受講生について、複数の施設等で、見学により直接話を聞く等を通じ支援の実際を学習しその機能等を学ぶこととしてもよい。</p>